

科学技術・産業政策論(3792-102) シラバス

平成29年4月11日

坂田一郎・丸山剛司

(講義の趣旨・目的・構成)

二十世紀において科学技術は飛躍的に進歩し、人類の活動範囲は桁違いに拡大した。特に近年の情報技術の革新によって、世界中の情報・知識を瞬時に手にすることが出来るようになったことは生活様式や産業活動、さらには個々人の仕事の内容にまで大きな変革をもたらした。一方、資源の枯渇、地球サステナビリティへの懸念、世界金融不安等様々なリスクの顕在化、超高齢化社会の到来、格差の拡大など地球規模で対処すべき課題が顕在化している。こうした地球規模の課題解決の原動力として、科学技術イノベーションに対する期待は高まっている。また、同時に、イノベーションは、課題解決に必要な財やサービスに対する新たな需要を健在化させることを通じて、経済成長や競争力強化に貢献するものと認識されるようになった。こうしたイノベーションにより課題解決と経済成長の同時達成を目指した構想の代表例として、OECD（経済協力開発機構）が2010年に出版した「イノベーション戦略」がある。これ以降、世界の主要国で、このコンセプトに基づく政策が立案されてきている。

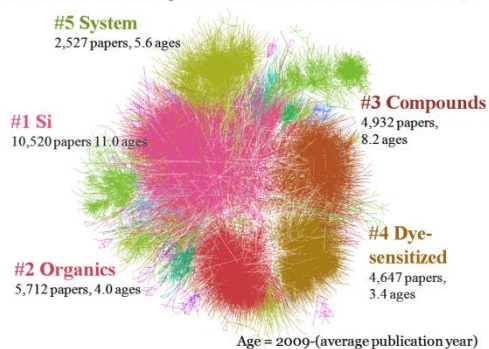
ここでは、科学技術イノベーションを経済社会にとって有益な形で推進するための政策とそれに関連した経済成長のための政策を合わせて「科学技術産業政策」と定義する。政策手法としては、様々なものがあるが、それらの中で、今日、中心となっているのは、「社会システム」の創造又は改革である。社会システムを構成する要素としては、法令、その他の制度、安全や環境基準、標準・基準等がある。また、これらを領域別に分けると、狭義の技術開発の環境、イノベーションの組織、イノベーションの外部環境条件、イノベーション金融等に分類することが出来る。今日、解決すべき課題の複雑化や科学技術イノベーションのモデルの構造変化に伴い、こうした社会システムは、大きな変革期にある。例えば、我が国においても、研究開発のスピードの加速、経済の知識化、イノベーションのオープン化組織等といった変革を受けて、近年、企業組織に関する法令が一新されている。本講義では、こうした「社会システム」に焦点をあてる。

具体的内容としては、制度的補完性、戦略的補完性等の社会システムに関する基礎的な概念の理解をした後、イノベーションに関する社会システムとその変革、イノベーション組織に関する社会システムとその変革の2領域について講義を行う。また、特定のテーマ（過去の例では、3Dプリンター、自動車の自動運転、iPS細胞と治療、ドローン規制等）を取り上げて、整備すべき社会システムに関して、幾つかの異なる立場に分かれてグループ・ディスカッション(チームに分かれてプレゼン、討議)を行う。

(講義の主な内容)

- (1) 政策 (社会システム) 論基礎の講義
- (2) イノベーション・システムに関する講義
- (3) コーポレート・システムに関する講義
- (4) グループ・ディスカッション (2テーマ)

Academic Landscape of Solar Cell Research (1959-2009)



(評価)

出席点 50% (グループ・ディスカッションを含む)

レポート 50%

注1) 学期末に提出期限のレポートが未提出の場合は、未受験として扱う

レポートは、英語でもOK

注2) インターンシップ、採用面接等やむをえない事情で欠席する場合は配慮をします

ので、申し出てください

注3) 試験は実施しない

連絡先:

坂田一郎 isakata@ipr-ctr.t.u-tokyo.ac.jp

坂田・森研究室: 工学3号館 201~203、307

TA: 高 于勝(Yu-Sheng Kao)